

防 水 性 無 収 縮 高炉(BB)セメント近似色

Pコーン穴埋め専用の高性能モルタル

コーンモルタル

プレミックスモルタルなので、水で練るだけで使用でき仕上がりもキレイ!!

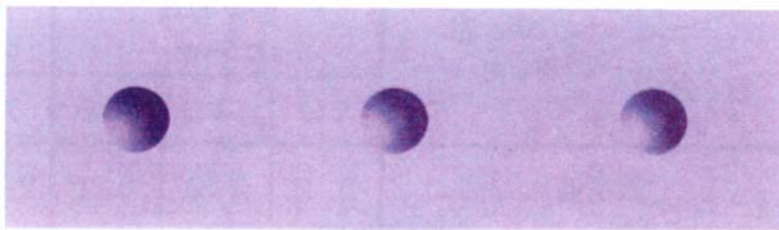


NET.10kg

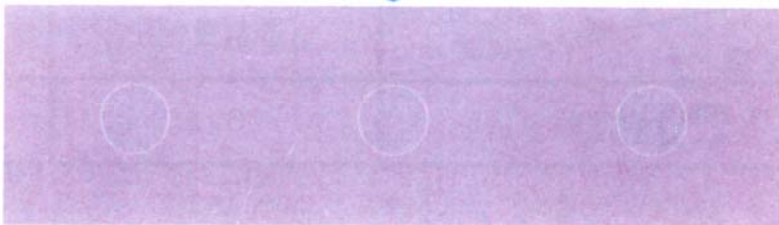
Point

コンクリート表面より距離が近い、セパの防錆に効果があります。

使用前



使用后



強 度

圧縮強度

46.6 N/mm²※

曲げ強度

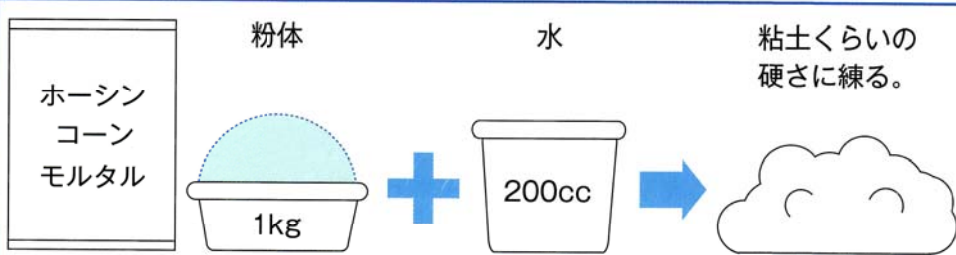
8.1 N/mm²※

強 接 着

2.1 N/mm²※

※材令28日での試験数値です。

使用方法



・10kg袋でPコーン(25mm)が280箇所穴埋め可能

注意事項

- ① 充填専用モルタルの為、表面処理には適しません。
- ② 20~25分程で硬化しますので、一回に練る量は1kgが適量です。
- ③ 施工はコテ、ヘラ又は、手で盛りつけます。
- ④ 下地のホコリ等を取り除き、水打ちした後に作業を行ってください。
- ⑤ 施工外気温度が3℃以下になった場合は施工を中止してください。
- ⑥ 作業中は、手袋をしてください。
- ⑦ 開封後は、湿気を避けて保管し、なるべく早く使い切ってください。

ホーシン・コーンモルタル試験成績書

株式会社 ホーシン

本社：大阪府門真市四宮3丁目10番34号

TEL 072-885-5433

FAX 072-884-3953

品名 / 項目	単位容積 質量 (g/cm ³)	凝 結			
		水量 (%)	室温 (°C)	水温 (°C)	終 結 (分)
測定値	2.00	22	20	20	32

区分 / 項目	曲げ強度 (N/mm ²)			圧縮強度 (N/mm ²)			接着強度 (N/mm ²)		
	7日	14日	28日	7日	14日	28日	7日	14日	28日
測定値	5.2	7.0	8.1	24.3	38.2	46.6	1.4	2.0	2.1

区分 / 項目	透水量(g)	収縮率(%)
測定値	6.2	0.06

備考： 単位容積質量の測定は、JIS A 1171に準じて行った。

圧縮強さ試験は、JIS R 5201に準じて行った。

接着強さ試験は、建研式により行った。

透水量は、JIS A 1404に準じ測定した。

収縮率は、試料を内径50mm、内高100mmの円柱型枠に鑄込み、1日後に脱枠し温度20±2°C、湿度60±10%の恒温・恒湿槽で27日間養生した後、円柱の直径 r をノギスにより測定し、次式により求めた。

$$\text{収縮率L(\%)} = \frac{50 - r}{50} \times 100 \quad (r:\text{mm})$$

ホーシン・コーンモルタル試験方法及び解説

ホーシン・コーンモルタルの試験をエレホン・化成工業 本社 技術開発部 試験室で行った。

1. 単位容積質量 JIS A 1171 準拠

試料を、容積500cm³の金属製容器の1/2程度まで入れ、容器底面を強固な床面に軽く5回打ちつけ、タッピングを行う。容器一杯まで、試料をいれ、再び5回タッピングした後、コテを容器の上縁に直角に当て左右に動かしながら、容器よりあふれているモルタルを静かにかき取る。

容器の外側に付いた試料をきれいにふき取ったあと、その質量を測り、容器の質量を差し引いて、試料の質量を算出する。単位容積質量は次式によって求める。

$$M=W/V$$

M:単位容積質量(g/cm³)
W:モルタルの質量(g)
V:容器の容積(cm³)

2. 凝結試験(終結) JIS R 5201 準拠

試料を上面φ75、下面φ85、高さ40mmのセメントペースト容器内にいれ、過剰のモルタルを除き、表面を平滑にする。ピガー針装置に終結用標準針を装着し、試料表面に徐々に沈降させ、試料表面に針の跡を止めるが、付属小片環による跡を残さないようになったときを終結とし、資料に注水したときから終結までの時間をもって、終結時間とする。

3. 曲げ強度 JIS R 5201 準拠

供試体作成 JIS A 1171 準拠

室温20度、水温20度にて供試体を作成する。

粉体に対して22%の水を容器に入れ、粉体を投入した後、低速ハンドミキサーにて30秒攪拌する。

攪拌した試料をJIS R 5201に規定する寸法40×40×160mmの型枠の半分ほどに入れ、JIS A 1171に示された突き棒を用いて15回全面にわたって突く。次に型枠上端まで試料を詰め、再び突き棒で15回突く。最後に型枠上面より5mmほど盛上がる程度の量を調整し、型枠の両端部を持ち20回程度タッピングを行い静地する。

終結時間経過時に、盛上がった試料をヘラで削り落とし成形する。

24時間後に型枠から外し、曲げ試験まで20度水中に浸漬し、養生する。

7日強度(成形後1日20度気中、脱型後6日間20度水中)

14日強度(成形後1日20度気中、脱型後13日間20度水中)

28日強度(成形後1日20度気中、脱型後27日間20度水中)

曲げ強度測定

曲げ試験はJIS R 5201に準拠して、アムスラー型圧縮試験機を使用した。

曲げ試験は各材齢とも3個の供試体で行い、試験は水中から取り出した直後に行う。

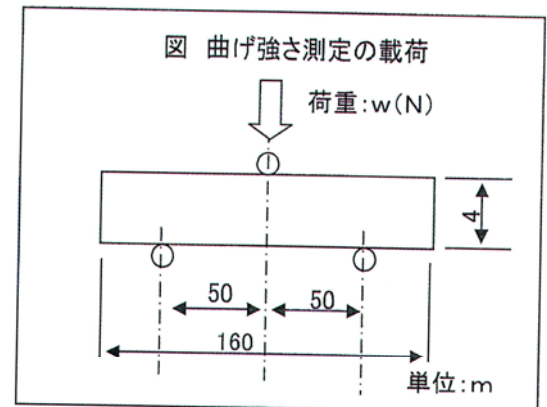
支点間の距離は100mmとし、供試体を成形したときに側面の中央に、毎秒50±10Nの割合で載荷して最大荷重を求める。

曲げ強さを次式により算出する

$$b=wx0.00234$$

b:曲げ強さ(N/mm²)

w:最大荷重(N)



4. 圧縮強度 JIS R 5201 準拠

圧縮試験はJIS R 5201に規定されているように、曲げ試験終了後の破断した供試体を使用して測定を行った。

供試体の成形面を側面として40×40mmの圧縮加圧板を乗せ、アムスラー型圧縮試験機にて、毎秒2400±20Nの割合で載荷して、最大荷重を求めた。

圧縮強さは、最大荷重から次式により算出する。

$$c=w/1600$$

c:圧縮強さ(N/mm²)

w:最大荷重(N)

5. 接着強度

室温20度環境下において、300×300×40mmのコンクリート平板に吸水調整を施し、試料を施工厚10mmで塗布し、建研式接着試験機を用いて接着強度を測定した。

6. 透水量 JIS A 1404

室温20度、水温20度環境下において、内径15cm、内高4cmの型枠に試料を2層に分けて入れ、表面をコテで平滑にならし供試体を作成した。各層は、JIS A 1171突き棒で15回突いた。

48時間後脱型し、その後19日間温度20度、湿度80%以上の湿空箱中で養生する。養生後、供試体中央部5cm程度に軽くやすりをかけて表皮部を除き、約80度で一定質量となるまで乾燥させ試験を行う。試験を行う前にデシケーターに移し、常温になるまで冷却して、試験前質量を測る。

JIS A 1404に示される透水試験装置を用い、294kPaの水圧を1時間かけ、透水量を測定した。

$$\text{透水量 (g)} = m_3 - m_2$$

m₂ = 試験前質量 (g)

m₃ = 水圧294kPaを1時間かけた後の質量 (g)

7. 収縮率

収縮率は、20度環境下で試料を内径50mm、内高100mmの円柱型枠を鑄込み、1日後に脱型し温度20度、湿度60度の恒温高湿槽で27日間養生した後、円柱を直径rをノギスにより測定した。

$$\text{収縮率L (\%)} = (50-r)/50 \times 100$$

r:養生後供試体直径 (mm)

Hoshin

株式会社 **ホーシン**

<http://www.hoshin.co.jp>

■ 東京支店	TEL.042-646-4600 FAX.042-646-0560
■ 東北営業所	TEL.019-639-9200 FAX.019-639-6071
■ 大阪支店	TEL.072-883-5151 FAX.072-884-3953
■ 広島営業所	TEL.082-424-9191 FAX.082-424-9210
■ 九州支店	TEL.097-521-3491 FAX.097-522-1002
■ 福岡営業所	TEL.092-925-5074 FAX.092-925-5070
■ 本社	〒571-0017 大阪府門真市四宮 3-10-34 TEL.072-885-5433 FAX.072-884-3953

ホーシン

検索



*仕様および外觀は改良のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。